

基肥量の違いが「とちあいか」の生育・果実品質に及ぼす影響

要約

基肥量を、「とちおとめ」慣行の窒素 15kg/10a から、窒素 8 kg/10a 程度に減肥した結果、初期の草丈や葉面積が抑えられた。そのことにより、乱形果や先端障害等の発生が減少した。なお、減肥による総収量の減少は認められなかった。

○ 展示のねらい

「とちあいか(栃木 i37 号)」は、平成 31(2019)年度から一般栽培が行われているが、柳葉症状や、果実に障害が出るなどの課題がある。特に那須管内では、初期に生育が旺盛なほ場の頂花房から1次腋花房で、花序の早い果実の障害が多く見られる。「とちあいか」の障害果発生が軽減する適正な施肥量を実証し、安定栽培技術の確立を図る。

(展示内容) 供試区①：基肥窒素 8.3kg/10a 農家慣行肥料
 供試区②：基肥窒素 13.7kg/10a UFいちご専用644
 対照区：基肥窒素 14.9kg/10a 農家慣行肥料

○ 主な成果

- ・10aあたり総収量は、供試区①及び供試区②で5.8tとなり、対照区の5.5tより0.3t多くなった(表1)。
- ・果実外観品質は、供試区①の頂花房で、正常果の割合が65.5%と最も高く、乱形果と先つまり果の割合が最も低くなった。また1次腋花房では、正常果の割合は各区とも同程度であったが、供試区①で乱形果と先白果・先青果の割合が最も低くなった(表2)。

表1 総収量 (t/10a)

	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	計
供試区①	0.32	0.77	0.71	0.73	1.02	0.79	1.47	5.8
供試区②	0.35	0.67	0.73	0.74	1.10	0.68	1.52	5.8
対照区	0.28	0.66	0.71	0.76	0.93	0.73	1.45	5.5

表2 果実外観品質割合(個数%)

	正常	三角	扁平・楕円	乱形	先白・先青	先つまり	不受精
頂花房 供試区①	65.5	5.5	21.8	1.8	3.6	0.0	1.8
頂花房 供試区②	60.8	5.9	19.6	3.9	0.0	2.0	7.8
頂花房 対照区	56.6	5.7	24.5	3.8	3.8	1.9	3.8
1次腋花房 供試区①	50.0	1.7	37.9	1.7	0.0	1.7	6.9
1次腋花房 供試区②	52.2	6.5	30.4	2.2	0.0	4.3	4.3
1次腋花房 対照区	50.0	13.0	23.9	6.5	2.2	0.0	4.3
全花房 供試区①	51.1	8.8	30.8	3.8	2.5	0.3	2.7
全花房 供試区②	50.1	11.7	26.4	6.6	2.3	0.6	2.3
全花房 対照区	45.3	14.8	28.4	4.9	1.3	1.8	3.6

○ 今後の方向性

「とちあいか」においては、基肥量を「とちおとめ」慣行の窒素 15 kg/10a より減らし、初期の障害果の発生低減を図る。ただし、本試験では基肥を窒素 8.3 kg/10a としたが、各ほ場の残存窒素量や土壌消毒方法を考慮し、施肥量を調節する必要がある。

実施機関：那須農業振興事務所経営普及部 実施場所：大田原市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315